

## 関東大学選手権優勝 狙うは3冠 リーグ戦へ全力 バスケットボール・男子



▲ゴールドユニホームで決勝戦を戦う優秀選手賞の大宮宏正(左)と伊藤孝志(右手前)  
(撮影:BOJ&魁生佳余子)

中川和之がMVP獲得

男子の第53回関東大学バスケットボール選手権は5月15日から30日まで、代々木第2体育館ほかで行われた。最優秀選手賞に中川和之(経済4・豊浦高)が、優秀選手賞に波多野和也(経営4・静岡学園高)と大宮宏正(経済3・作新学院高)が選ばれた。

京王電鉄杯で全勝優勝を遂げた勢いのまま、初戦から圧倒的な力の差を見せつけ、決勝まで順調にコマを進めた。

決勝は青学大と対戦。プレッシャーからか、序盤は動きに硬さが目立ったが、大宮のダンクを含む33得点の活躍などで、78-64の快勝。悲願の初制覇に、コート上には歓喜の輪が広がった。佐々木優一主将(法4・静岡学園高)は「とにかくうれしい。ただ、まだ今年目標である3冠(関東大学選手権、秋季リーグ戦、全日本大学選手権)の内の1つ目。これに満足せず、リーグ戦に向けて、さらに自分たちらしいプレーが出来るように頑張りたい」と話し、中原雄監督も「まだまだ挑戦者として、リーグ戦に向けて日々の練習に全力で取り組んでいく」と気を引き締める。

次は関東新人戦。チームの勢いに乗り、1、2年次生たちにも優勝で実力をアピールしてもらいたい。

(松本 旬平・経済2)

【ニュース専修2004年6月号16面】

## 惜しくも準優勝 長南の負傷退場響く

バスケット・関東女子学生



▲決勝リーグの対早大戦 シュートする長南

第38回関東女子学生バスケットボール選手権は5月13から23日まで、代々木第2体育館ほかで行われた。個人では、長南真由美(経営4・山形市立商高)が敢闘賞、川村良子(文4・東京成徳大付高)がベスト8賞を獲得した。

ブロック別トーナメントを突破し、決勝リーグ初戦の早大戦。序盤からリードを許す展開となったが、第3、4Qで逆転に成功。優勝をかけた日体大との全勝対決は、立ち上がりから相手の攻勢に押され、一時は10点差をつけられる。この苦しい流れの中、長南、川村の2人が攻守にチームを引っ張り、第3Qには逆転に成功。試合はシーソーゲームとなったが終盤、大黒柱・長南の負傷退場が響き、50-60で敗れた。

児玉茂監督は「大会前からケガ人が多く、満足いく練習が出来なかったが、現時点でのチーム力を再確認出来た」と語った。

(久我 智也・文2)

【ニュース専修2004年6月号16面】

## 準優勝 2年ぶりにAクラス復帰 東日本学生相撲選手権



▲決勝トーナメントに進出、見事準優勝に輝いた専大(写真=久我 智也)

東日本学生相撲選手権が6月6日、両国国技館で行われ、専大はAクラス(1部)準優勝と健闘。

Bクラス(2部)から出場の専大。東大、早大、法大を破り、全勝で優勝しAクラス予選へ。日大には敗れたものの、駒大、大東大に連勝し、6位で決勝トーナメントに進出。優秀8校決勝トーナメントは、1回戦で東農大に3-2、準決勝でも東洋大に3-2で勝利。決勝では再び日大に苦杯を喫したものの準優勝となり、2年ぶりのAクラス復帰を決めた。Bクラス優勝校のAクラス決勝進出は、昭

和57年の専大以来22年ぶり2度目の快挙。

中西健二主将(経営4・目黒学院高)は「ここまで来られたのは日頃の練習の成果。今後も気を引き締めて頑張りたい」と力強く語った。

(大野 愛子・経済3)

【ニュース専修2004年6月号16面】

## 惜敗！1部復帰ならず

東都大学野球リーグ戦(入替戦)



▲2点タイムリーを放った長谷川  
(対駒大戦=6月7日の2回戦で)

8勝3敗1分の勝ち点4で東都大学野球春季リーグ戦(2部)を制した専大野球部。1部復帰をかけて1、2部入れ替え戦に臨んだが、駒大に1勝2敗で敗れ、悲願達成はならなかった。

しかし、春季リーグ戦(2部)で最高殊勲選手賞を阿部正太郎(経済2・新潟名訓高)が、最優秀投手賞を深澤季生(経営3・藤嶺学園藤沢高)が獲得するなど、ナインは確かな成長を見せ、秋季リーグ戦での1部復帰に期待が高まる。

### 【1回戦】

息詰まる投手戦を展開。6回裏、連打と失投でチャンスをつかみ、柿沼伸彦(経済4・宇都宮学園高)のタイムリーで1点を先制。続く7回には3塁打の飯田真弘(経営4・藤代高)を松本哲也(経営2・山梨学園付属高)がタイムリーで返し、1点を追加。投げては先発・阿部が被安打8、7奪三振で完封し、2-0で接戦を制した。

### 【2回戦】

初回、先頭打者本塁打で先制を許すが、3回、1死1-3塁で長谷川勇也(商2・酒田南高)が2点タイムリーを放ち逆転。この回、更に1点を加える。雨で一時中断した後の6回、白濱暁(商4・専大北上工)の本塁打で追加点を挙げるが、7回裏、四球、失策などのミスから逆転を許す。9回、松本のタイムリーで同点に追いつくもサヨナラ本塁打を浴び、5-6で敗れた。

### 【3回戦】

初回、森拓男(商4・東福岡高)の2点本塁打で先制。しかし2回、2本の3点本塁打などで7失点を喫す。その裏に2点、5回にも1点を返すが、苦しい展開のまま最終回へ。杉田暁彦(商4・高陽東高)のタイムリーで1点を返すが、あと一歩及ばず、6-8で無念の涙を飲んだ。

(末永 恵・文2)

【ニュース専修2004年6月号16面】